

第一礼拝次第

メッセージ: 郭永東牧師



プレイズリード: 郭永東牧師

前奏			
頌栄	5 4 0	会衆	
主の祈り		会衆	
プレイズ	「主イエスを喜ぶことは」 「God bless you」	会衆	
聖書朗読	列王記上 19:1~8 (旧約聖書 p.565)	司会	
祈禱		司会	
証	新垣ひろみ執事		
賛美	讚美歌 301	会衆	
メッセージ	「カルメル山とレバノンの山の間」	牧師	
祈禱		牧師	
賛美	新生讚美歌 557	会衆	
献金			
報告		司会	
頌栄	新生 672b	会衆	
祝禱		牧師	

<巻頭言>

「どんな時でも」

牧師 郭永東

ダビデは聖書に登場する人物の中でも多くの苦難と試練を経験した一人です。しかし、ダビデが残した 80 篇の詩篇の中で最も多い主題は、まさに神の善良さと慈愛に対する告白です。

ところで、この「善良」というのは「見た目が美しい」という意味ではなく、神の計画と密接な関係があります。聖書で「善」という言葉が初めて使われたのは創世記です。「神は言われた、『光あれ。』こうして、光があった。神は光を見て良しとされた。」(創世記 1:3-4a)

ここで「良し」とされるヘブライ語(トープ)は「善良な」、「良い」、「素晴らしい」という意味です。しかし、第一日目に光があったとき、その姿は本当に見た目が美しかったのでしょうか? そうではなかったでしょう。しかし、神はそれを良しとされました。つまり、「良し」というのは、神が意図された通りに創造され、神が望まれる状態であることを指します。ですから、「善」というのは人間が考える良いものではなく、神が見られるときに完璧な調和と均衡を成している状態を意味します。

多くのクリスチャンは結果が良ければ神の導きであると考えer傾向があります。そのため、私の悲しみが喜びに変わり、ヨセフのように危機から祝福に変わることがその例です。もちろん、それも神の導きです。しかし、善良な神は悲しいときでも喜ばしいときでも常に善良なお方です。善良な神は私の状況によって変わる方ではありません。

ダビデはこのような神を経験し、常に感謝し、善良でその慈愛が永遠であると告白することができました。今週も変わることなく善良な神を思い、経験する一週間となりますように。



第二礼拝次第

メッセージ: 伊禮信義先生

メッセージ: 「朽ちない冠」

聖書: コリント I 9:24~27(新約聖書 p.311)

プレイズ: 「我らの主に向かって」

「栄光イエスにあれ」

賛美: 新生 293 新生 386



ファミリー礼拝

聖書: 出エジプト記 1:22~2:10

メッセージ: 「モーセの誕生」